

医心 伝心

コロナ第6波

富山県医師会理事 林 龍二

昨年の夏、東京オリンピックが近づくころ、コロナの第5波が迫り来て相変わらず日本中はざわついていました。「五輪をやるべき（やって欲しい）」という人と、「こんな時に五輪はやってはいけない！」という人と。私は前者で、五輪は開いてほしいと思っていました。もっと言うと柔道とレスリングのチケットを手に入れていたので、直前まで観戦に行くつもりでした。残念ながら無観客ということでテレビ応援に終わりましたが。

思えば2年前にダイヤモンドプリンセス号が横浜港で乗客、乗員が船上隔離をされ、幾人かの犠牲者が出ました。これは100年に1度のパンデミックと動揺しました。また、海上に留め置かれた船を見て、感染症（法）というのは一部を犠牲にしてまで、感染拡大を防ぐ法律なのだと残念な気持ちになったことを覚えています。あとから考えれば、もっと早く乗客を下船させる手もあったのですが、「致死率の高い未知の感染症」という恐怖におののき、最悪の場合でも、犠牲者を限定することを選んでいたのでしょう。それにしてもあのダイヤモンドプリンセス号の対応を本当はどうすればよかったのかという話はあまり聞かない気がします。

あれから2年が経ち、現在第6波の真っ最中となりました。新型の新型、「オミクロン株」ということで、かなり致死率は下がったようです。それでも、感染の速さは増しているということで、2022年1月25日現在、過去最高の検査陽性者数を更新しています。みな、「もういい加減にしてくれ！」と思いながらも、陽性件数が多いことで相変わらず自粛自粛の毎日が続きます。もう2年が

経ち、6波目なのだから、何か新たな策はないのかと思ってしまいます。いやいや、さすがに2年が経ち、随分策は強化されたのでした。まずはワクチン。もう2か月早く導入できればオリンピック観戦も実現できたと思われます。そして、抗体薬や抗ウイルス薬も実現しています。さらに、遠隔医療や往診医療の強化でかなり感染対策は進んだのではないかと思います。しかるに、人流抑制や飲食店の規制、また、社会活動の抑制は相変わらずの気がします。

私はもともと呼吸器内科を主に診療をしていました。それで時々「結核騒ぎ」に巻き込まれることがありました。どこかで（特に病院で）結核陽性者が出るとそれこそ非常事態宣言といった感じで大騒ぎになります。保健所への報告が遅れようものなら、罪人扱いされてしまいます（届け出義務違反）。そして、臨時の感染対策会議が開かれ、濃厚接触者の割り出し、T-SPOT 検査とレントゲン撮影など、多大な労力が費やされます。初期対応の後は保健所の管轄でその後のフォローアップが半年以上続くといった具合です。もちろん、ザ国民病であった肺結核に対抗するための対策なので不要とは言いませんが、もう少し合理化、簡略化を考えてもよいのかなとも思っていました。また、一度結核の診断がつくと原則感染症指定病院行きとなり、大学病院でも診療の機会を与えられないという不思議な制度です。

こうした2類感染症の法規が当てはめられた「新型コロナウイルス」。今後はどのような結末を迎えるのでしょうか？